

自動車産業サプライチェーン の持続的発展に向けて

～金型等の無償保管問題の根絶と「三方よし」の取引適正化～

素形材産業で最高精度と最大の量産性を持つ、
金属プレス加工業の実態

一般社団法人 日本金属プレス工業協会
令和8年4月20日

現場から上がった「取引適正化」への切実な声

- 型取引の課題（14/22件）：自社資産型の保管料未払い、膨大な無償管理工数、廃棄の停滞。
- 補給品の課題（11/22件）：少量生産時の単価据え置き、20年に及ぶ長期供給義務。
- 代金決定の課題（12/22件）：転嫁のタイムラグ、過剰な原価エビデンス要求。
- その他（8/22件）：SSA活動（品質適正化）の停滞、ノウハウ流出の懸念。

なぜ保管金型が問題になったか

〔社員駐車所の彼方まで続く不要型〕 〔保管テントからはみ出す保管型〕



なぜ「無償保管」が続いてきたか

構造的問題の提起と法的リスクの認識

- 専用性と流用困難性：金型は特定部品専用であり、他部品への転用がほぼ不可能な性質を持つ。
- 不確実な予測への対応：発注側の「念のため」という要請が、受注側のスペースを奪ってきた。
- 発注側担当も本当のことが判らず、廃棄を許可する事への責任回避が真の原因。

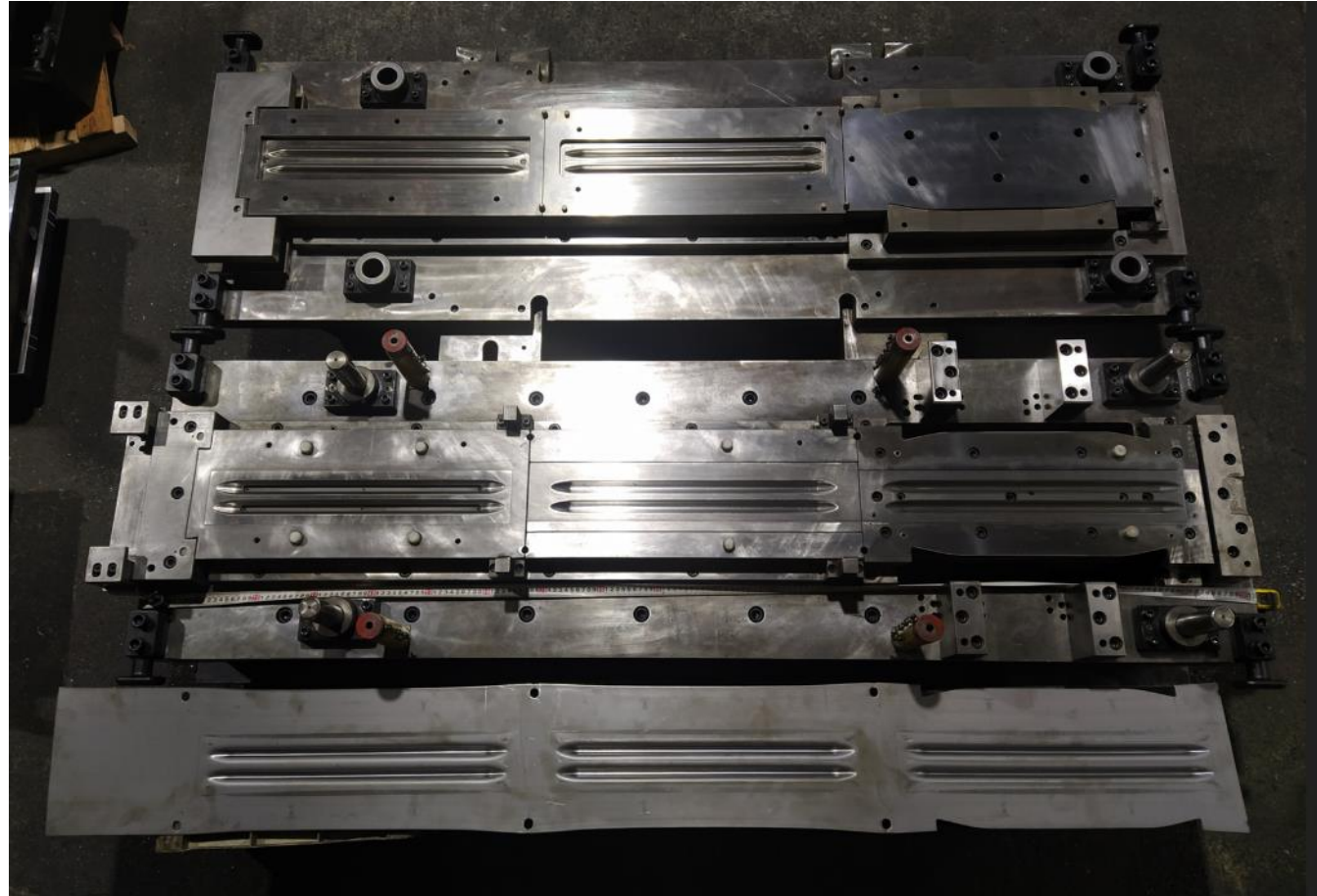
専用性と流用困難性とは（プログレ上下型） 〔幅2 m、上型、下型で3 tある金型でも特定部品専用である〕



プログレ型（上下）（中岡プレス工業様提供）



プログレ型（上下）（中岡プレス工業様提供）



プログレ型加工とは

金属プレス機械と周辺機器

(久野金属工業提供)



取適法への準拠

適正取引の新基準～何を変えなければならないか～

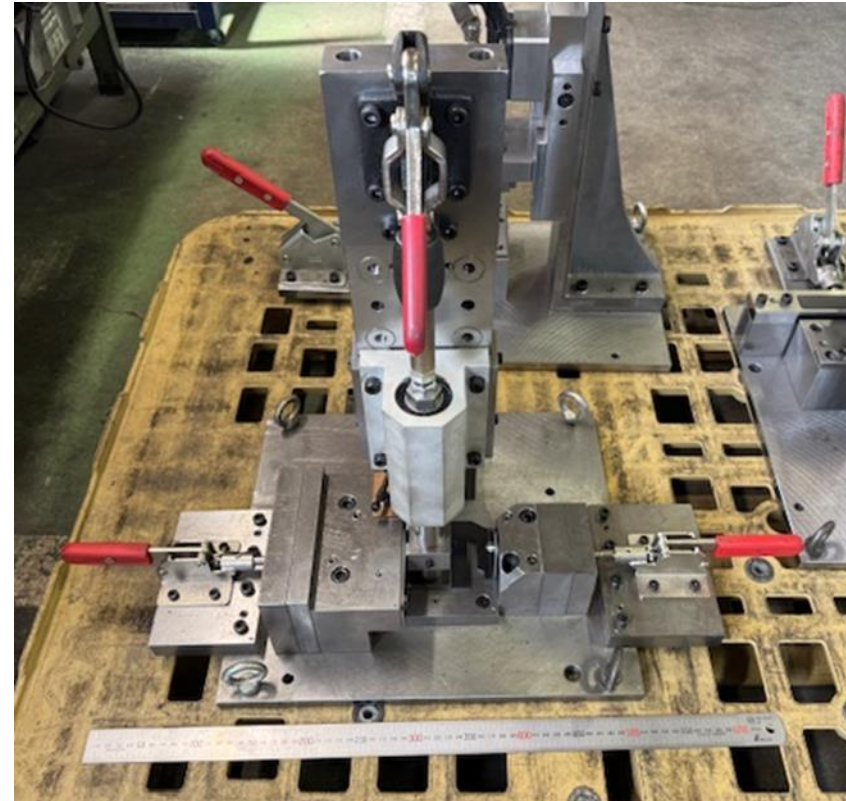
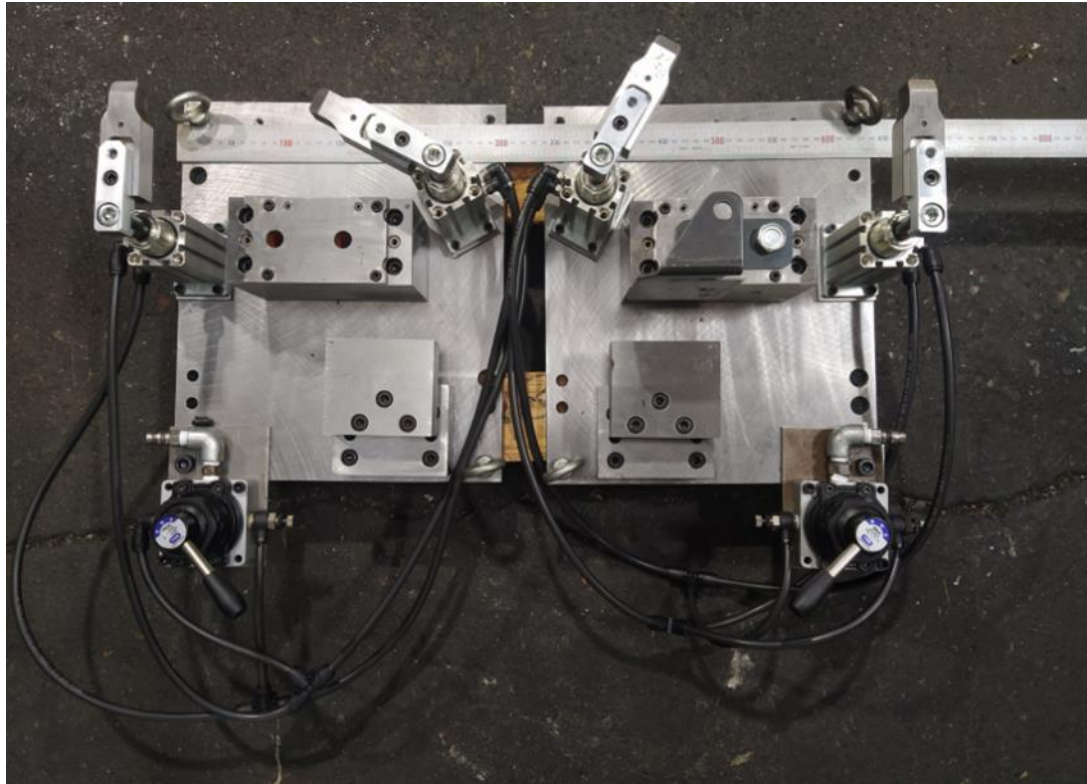
- 対象の拡大： 金型に加え「木型・治具・検具」も新たに規制対象。
- 協議の義務化： 発注側から「最低年1回」能動的な協議の場を設ける。
- 支払ロジックの適正化： 「単価に含まれる」という曖昧な表現を廃止。
 - ・ パレット換算や面積ベースによる保管時算出根拠の提示。

木型（鑄造用木型）

((有)細井木型製作所様ご提供)

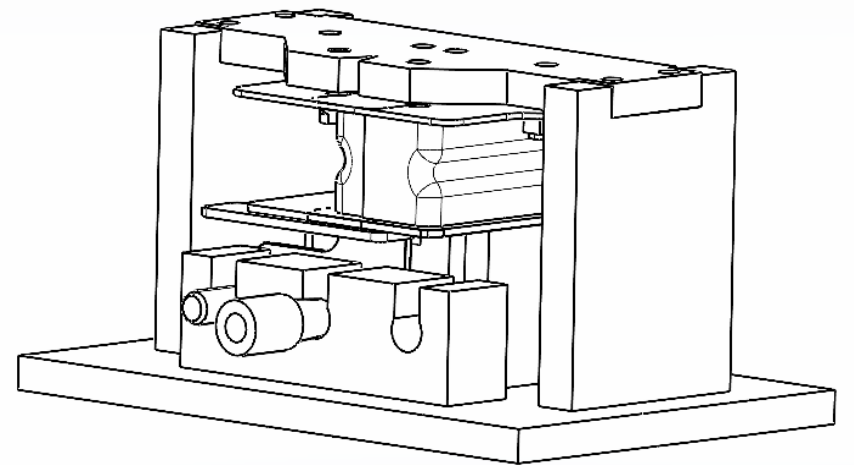
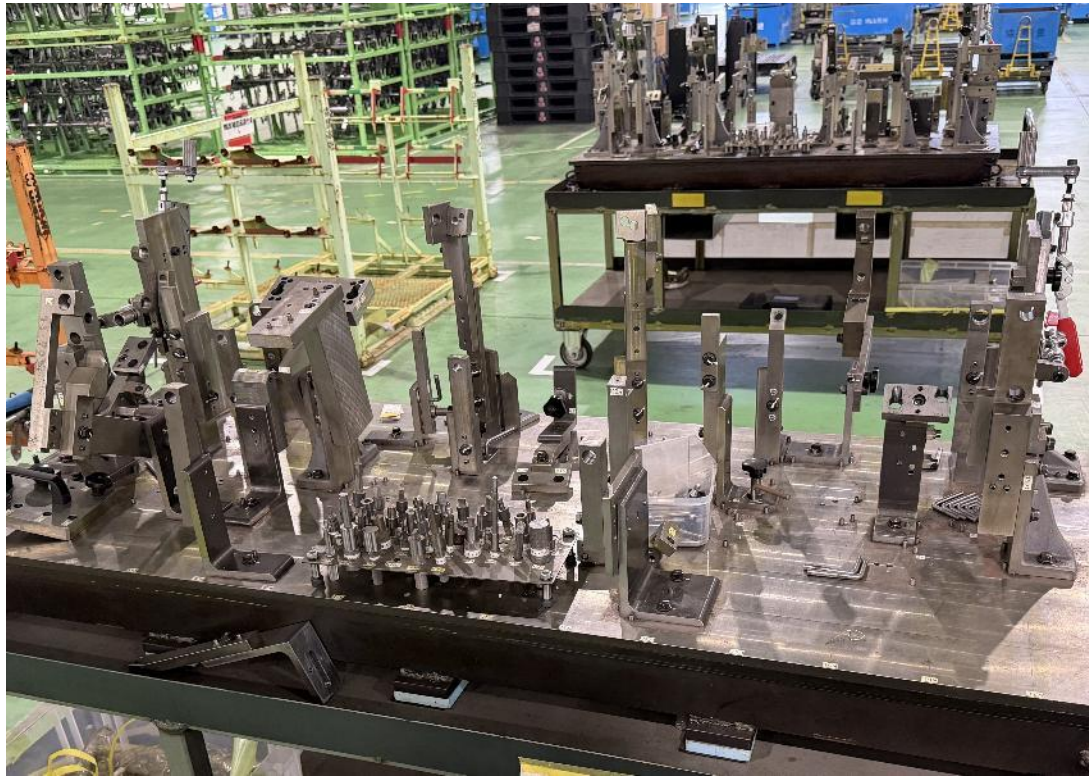


治具(溶接用治具)とは、〔中岡プレス工業様提供〕
〔複数の金属部品を溶接組立する為に位置決めする道具〕



治具（検査用治具）

〔金型と同じく全て専用〕



win-winな解決策① 資産の適正化

前向きな解決法①：無駄な資産と工数の削減

- 「1年以上流動なしは原則廃棄」
 - 発注側：保管費用の支払い削減。
 - 受注側：工場スペースの解放と管理工数の削減。
- 「生涯台数一括生産・一括引取り」
 - 受注側：設備の早期廃却、生産の効率化。
 - 発注側：長期的な供給リスク・管理コストの排除。

win-winな解決策② デジタルと技術

前向きな解決法②：デジタル化へのシフト

- 現在の「無償保管問題」の裏側にある膨大な検証負担。
- 管理工数を削減するための仕入先申告制への期待。
- 情報共有の限界に対峙するしくみ、型ポータル。
- 所在確認の迅速化や登録精度の向上（管理工数削減）には、デジタルポータルの活用。

未来に向けた3つのアクションと結語

- 1、商習慣から「明文化」へ
 - ・ 暗黙の了解を脱却し、契約による透明な取引関係を築く。
- 2、「費用負担」から「総量の削減」へ
 - ・ 業界全体で物理的なムダ（不要型や治具）を減らし、未来への投資スペースを創出する。
- 3、「三方よし」の標準化
 - ・ 自工会・部工会・素形材産業団体が一体となり、このフレームワークを日本の自動車産業の新たな「標準」とする。

取引に係る課題と解決に 向けた取組

日本鑄造協会
2026年4月20日

型取引に係る課題と解決に向けた取組（日本鑄造協会）

【現状の課題】

①経済的課題（コストと基準の不在）

- ・保管費用が**1型数百円**など、20年以上にわたる土地代・棚設置費用を賄えない極めて低い保管料の実態
- ・顧客ごとに計算式が異なり不透明。「目安」だけでなく、ある程度**具体的な基準の策定**を希望

②管理的課題（膨大な工数と負担）

- ・型のリスト化について、複数型が紐づく品番の突合や、存在しない型・20年以上前の型の発見など、**リストと現物の突合負荷**に多大な工数が発生

③廃棄的課題（停滞するライフサイクル）

- ・**EOP（生産終了）定義の曖昧さ**により、廃却申請後も半年以上回答が無く放置されるケースも頻発
- ・補給パーツの可能性を理由に、具体的な生涯数量が示されないまま**不透明な継続保管**を強いられている

【解決への取組】

①個社レベルの取組

- ・**定期的な棚卸と可視化**：年度末等の棚卸を通じ、1年間未使用の型を顧客と共同でリストアップ
- ・**条件に基づく費用交渉**：「年間1,000個以下」「1年以上出荷なし」等具体的基準に基づく保管費や、都度のメンテナンス・補修費用の請求
- ・**EOP時の「生涯数量」確約**：生産終了を迎える製品に対し、以降の生涯数量を設定・残置生産した上で、型の返却か廃棄の判断を迫るプロセスの構築

②日本鑄造協会の取組

- ・経産省の「**型取引の適正化推進協議会報告書**」・「**型管理運用マニュアル**」や協会作成の「**鑄物貸与モデルの取り扱いに関する覚書**」等の**周知**ならびに**活用の徹底**（協会HP「取引適正化関連リンク」に掲載）
- ・協会での各種会合（部会・委員会等 計16回）を活用し、公取委の取適法勧告事例の紹介、各社の**取組状況、優良事例に関する情報交換**を定期的に実施。型管理の適正取引を業界全体で底上げ

自動車サプライチェーンに 掛かる実態調査結果概要

日本ダイカスト協会

2026年4月20日

◆型等取引等に関する実態調査報告書 (サマリー)

課題	実態	深刻な論点
①型等取引・保管に係る課題	少量流動品や補給品の保管料支払いは一部で開始されたが、支払基準(例:「1年以上非流動」等)が実態と乖離している。	<p>・型等取引:ダイカスト金型は、オーダーメイドであり、他社への転用は行わない。また、金型費用の大半が材料費であり、材料代の支払いは現金で行われるため、金型は発注元である顧客資産とし、支払いは着工時、完成費時に半分ずつ支払うのが適当と考える。</p> <p>・型等保管:ダイカストメーカーにとって、金型は生産に供する期間において、金型保管が必要であり、生産期間以降の保管費用は原則費用として織り込まれていない(発注側もそのような費用を織り込んでいないと思う)。金型の保管期間は見積時提示された生産量を、金型寿命で割った期間で、それ以降は別途保管費を支払っていただきたい。</p>
②補給品供給に係る課題	量産終了後の「補給品」への移行タイミングが曖昧であり、多くの場合で量産時の低単価が据え置かれている。	<p>・量産終了後の取り扱い:量産品が経過とともに減少し、補給品となる場合、保管期間は見積当初の保管期間以降は金型の保管費用を支払っていただきたい また、金型保守の費用についても、保管費用が長くなると、金型保守費用は加速度的に増加する傾向があるため、都度見積もり払いが望ましい。</p>
③代金決定・価格転嫁に係る課題	原材料費のスライド制は浸透しつつあるが、労務費・エネルギー費の転嫁については客先独自の「自社基準(低い労務比率等)」が障壁となっている。	<p>コストダウンとの相殺:費用上昇を認める条件として、同等以上の改善(値下げ)を強要する「押し付け改善」が常態化している。</p> <p>「ティア2の壁」:上流(ティア1等)で止まっている価格転嫁を下流サプライヤーが赤字で吸収する「板挟み」構造。</p>
④知財・支払い・商習慣に係る課題	支払い手段の現金化は進展しているが、型費の支払いタイミングや技術情報の取り扱いに大きなリスクを抱えている。	<p>技術・ノウハウの無断流出:海外転注等を理由とした、金型図面や製造ノウハウの「無償・強制提供」要求。</p> <p>後出しの単価決定:正式発注(PO)なしに型着工を強要し、量産直前に単価を一方向的に引き下げる不適切な商習慣。</p>

(御参考) 協会会員の現状並びに生声

※ 「現状及び生声」は、弊協会の一般的もので、特定業界のみの状況は示しておりません。

区 分	現 状 (協会独自調査)				
1) 型管理期間	①10年超 6割	②5年～8年未満 2割	③2年～5年未満 1割		
2) 型保管場所	①社内敷地 7割	②社内敷地+借上地 3割			
3) 型の専有面積 (テニスコート1面=約260㎡)	①500㎡ 5割	②750㎡ 2割	③1000㎡ 2割	④1250㎡超 1割	
4) 保管料取得までの期間	①2年未満 3割	②5年～10年未満 3割	③10年超 2割		
◆生声	<p>【お困りの点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・型等は「型の保管料」よりも、「型の廃棄」を前提として頂きたい ・型管理のために、社内敷地(駐車場等)を型保管地に転用せざるを得ない ・型保管地があり、部品等納入、製品出荷の業務を並行して行うためトラック配置が難しく、トラック待機を避ける為、配送の工夫に労力を要する <p>【好事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(発注事業者からの)生産完了の連絡受領後に金型廃棄申請 (一定期間毎にフォローアップ) ・(発注事業者都合で)金型廃棄不可の場合、金型保管費用申請(一定期間毎にフォローアップ) 				

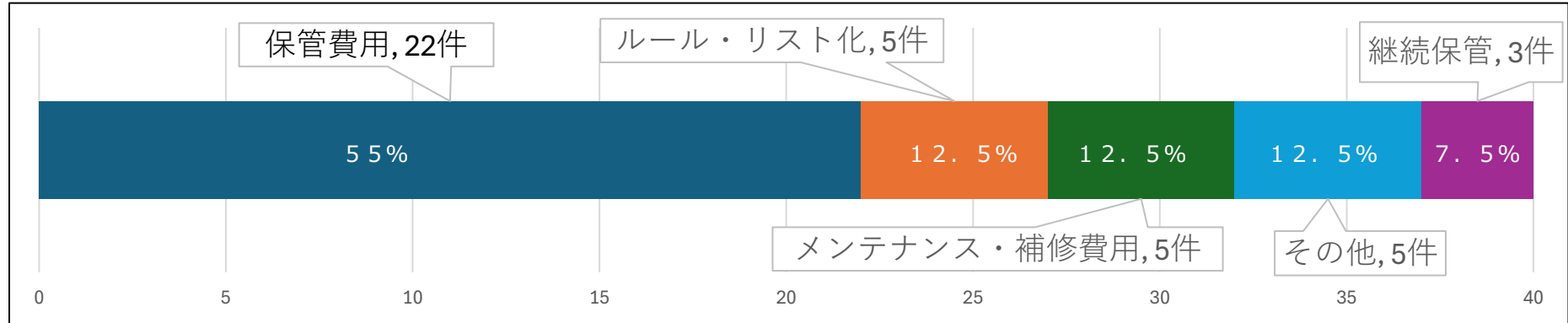
自動車産業における取引 適正化に関する実態調査

日本鍛造協会

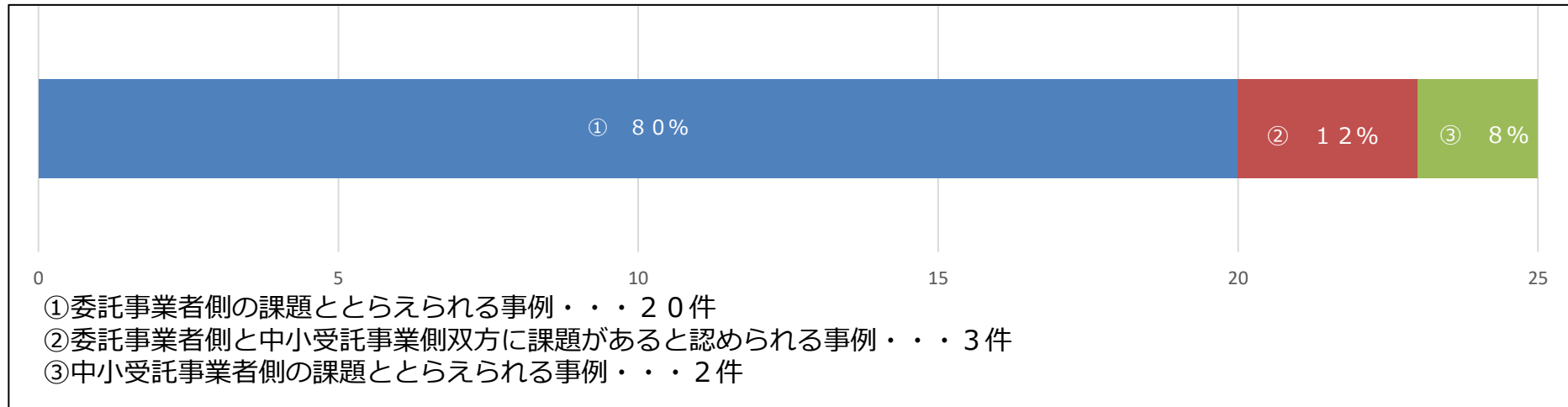
2026年4月20日

自動車産業における取引適正化に関する実態調査 (型等取引に係る課題)

1. 型取引に係る課題 (自由記述方式による件数)



2. 課題責任区分について (自由記述内容を層別)



3. 良い事例

- ・度重なる協議の結果、型保管費用については顧客主導での長期保管金型の調査依頼が届くようになり、保管スペースあたりの費用を支払ってもらえるようになった顧客もある。
- ・金型のメンテナンスや補修費用については、明確なエビデンスを作成し交渉の結果、一部客先では負担していただけることとなった。

4. 課題解決に向けた取り組み

- 過去の取り組みで出尽くしているため、個別の取り組みについては言及しません。
- 委託事業者側の責任は80%あり、明らかに取適法違反も散見されます。しっかりした対応を望みます。
- 受託事業者の課題は、個社別に解決のためのすみやかな行動が肝要となります。
- 型等に関しては、型の廃棄・保管・費用負担は根本的に契約マターとなりますが、「書面の取り直し」「取り決め」がないことに起因しております。契約マターとしての認識で、進めることが肝要と思われます。
- 鍛造協会活動としては、関係省庁より発出される「取引適正」に関する発出書面は、理事会や常設委員会に説明すると同時に、協会HPや広報誌、月間ニュース等を通じた情報発信を継続して行ってまいります（Gメンへの相談も適宜行うよう会員各位に周知を図る）。

第2回自動車サプライチェーン 取引適正化会議に係る資料

令和8年4月20日

日本粉末冶金工業会

型取引等に関する課題と取り組み

課題

- ・ 金型保管費の支払いルールが統一されておらず、個別交渉に依存している。
- ・ 支払い拒否や交渉停滞により、保管費の回収が十分に進んでいない。
- ・ 調査・証憑提出・請求手続きなどの事務負担が増加している。
- ・ 金型管理方法や費用負担の考え方が企業ごとに異なっている。
- ・ 価格決定方法の適正化については、単価改定の協議は多くの仕入先と行われているが、まだ協議が十分ではない場合もある。

取り組み

- ・ 本会合や国からの施策や情報を会員に周知・共有を行うとともに、解決のためのお願いも上流団体や経済産業省に行っていく。